

[高校生によるSDGsグローバル対談]開催

第2回カンボジア世界遺産からの探究学習会

～トゥールスレン虐殺資料館の記憶を受け継ぎ、平和を探究、未来へつなぐ～

今年度は、日本と台湾の高校生・大学生がカンボジアを訪問し、現地からオンライン学習会を開催します。また、地域のユネスコ協会で活動する学生が、カンボジアに関する探究学習の成果を発表します。その後、UNESCO世界遺産に登録されたカンボジアの記憶遺産群の構成資産であるトゥールスレン虐殺資料館から、現地を訪問するユネスコスクールを卒業した大学生と在学中の高校生が中継を行い、人権、平和、記憶の継承について学びを深めます。過去の悲劇を知ることから、現在の世界を考え、未来の平和へ行動する学びへ。

本事業は、ユネスコ憲章の理念に基づき、国境を越えた対話と探究を通して「人の心の中に平和のとりでを築く」探究教育活動から、ESDへとつなぐ教育実践です。みなさん、一緒にユネスコの理念をもとに平和な世界を探究しましょう。

実施日 2026年8月2日(日) 11:00～13:00



タイムスケジュール

11:00-現地からの挨拶(資料館・学生・関係者)

11:05-ユネスコ協会学生等の探究発表会

カンボジア平和探究学習会

参加校動画5分(英語字幕)発表×5校発表

11:45- トゥールスレン虐殺資料館中継学習

トゥールスレン虐殺資料館から中継

12:30- 講義と対話～ユネスコ憲章の理念の視点から～

12:55- 振り返り

お申込はこちら

<https://forms.cloud.microsoft/r/X9jmgVrNAK>


(2025年世界遺産からの中継学習会の様子)

アドバイザー



野口 昇先生

(日本ユネスコ協会連盟顧問・前理事長)

ユネスコに関する基本書を執筆。旧文部省を経てバリの国連教育科学文化機関(ユネスコ)本部で長年勤務し、北京事務所長などを歴任。



平井 花画先生

(岐阜県ユネスコ協会会長)

ユネスコ精神を糧に半世紀。世界寺子屋運動の20年間にインド、カンボジア等へのスタディーツアーで引率した青少年200人以上。岐阜県ユネスコ協会・会長。



松野 至先生

(名経大ユネスコESD推進室 特任講師)

文部科学省EDU-PORT応援事業採択、ESD大賞受賞、ユネスコ/日本ESD賞国内選考。国内外での活動実績を有し、教育を起点に持続可能で平和な社会の共創を実現。

ZOOM

リアルタイム参加

YouTube

アーカイブ配信

主催 : 市邨学園 名古屋経済大学国際交流センターユネスコESD推進室
 共催 : 岐阜県ユネスコ協会 市邨学園 名古屋経済大学市邨高等学校 ユネスコ平和教育推進部
 後援(申請中) ACCU 愛知県教育委員会 名古屋市 独立行政法人国際協力機構
 問い合わせ : 名古屋経済大学市邨高等学校ユネスコ平和教育推進部主任教諭 松野 至 052-721-0161
 名古屋経済大学国際交流センター ユネスコESD推進室 特任講師 松野 至 0568-67-0511



@ICHIMURA_UNESCO_ACTIVITIES

日本のユネスコ加盟75周年記念事業

カンボジア世界遺産からの中継探究学習会 実施要項

1. 事業名 日本のユネスコ加盟75周年記念事業 高校生によるグローバル対談
カンボジア世界遺産からの中継探究学習会ー 記憶を受け継ぎ、平和を問い、未来へつなぐー

2. 趣旨

本事業は、日本のユネスコ加盟75周年記念事業の一環として、カンボジア・プノンペンにあるトゥールスレン虐殺資料館からの中継探究学習会を実施するものです。トゥールスレン虐殺資料館は、クメール・ルージュ政権下で多くの人々が拘束・拷問された旧S-21収容所であり、現在は、過去の人権侵害の記憶を継承し、平和について考えるための重要な学びの場となっています。2025年には、M-13、チュンエク虐殺センターとともに、UNESCO世界遺産の構成資産として登録されました。

本学習会では、日本と台湾の高校生・大学生が現地を訪問し、カンボジアからオンライン学習会を開催します。また、地域のユネスコ協会で活動する学生等が、カンボジアに関する探究学習の成果を発表します。その後、トゥールスレン虐殺資料館からの中継学習を通して、過去の悲劇を単なる歴史的知識として学ぶだけでなく、人権、平和、記憶の継承、国際理解について考えます。本事業は、ユネスコ憲章の理念に基づき、「人の心の中に平和のとりでを築く」ための教育実践として、国境を越えた対話と探究を通して、生徒・学生が国際社会の課題を自分事として考え、未来の平和に向けて行動する力を育むことを目的としています。

3. 目的

- ・カンボジアの歴史とクメール・ルージュ政権下の人権侵害について学び、平和と人権の重要性を考える。
- ・UNESCO世界遺産に登録された記憶の場から、記憶の継承と平和教育の意義を学ぶ。
- ・日本、台湾、カンボジアをつなぐオンライン学習を通して、国境を越えた対話と相互理解を深める。
- ・高校生、大学生、地域ユネスコ協会の学生が、探究学習の成果を発表し、学びを社会へ開く。
- ・ESDの視点から、過去の歴史を現在の国際課題や自分たちの行動につなげて考える。

4. 日時 2026年8月2日（日） カンボジア時間 9時00分～11時00分
日本時間 11時00分～13時00分
※カンボジアと日本の時差は2時間です。

5. 実施方法

カンボジア現地からのオンライン中継および日本国内会場との接続により実施します。

現地には、カンボジア学校支援、パレスチナ学校支援に取り組む高校生・大学生がESD研修にて参加しています。

※文部科学省EDU-PORT応援プロジェクト令和5年～採択事業、2025ユネスコESD賞国内選考案件

日本・台湾の高校生、大学生、地域ユネスコ協会の学生、関係教員、アドバイザー等が参加予定です。

6. 主な内容 本学習会は、以下の流れで実施予定です。

① 開会

- ・現地からの挨拶
- ・本事業の趣旨説明
- ・アドバイザーからの挨拶

② ユネスコ協会等の学生による探究学習発表

- ・地域のユネスコ協会で活動する学生等によるカンボジアに関する探究学習発表
- ・5分程度の動画発表および発表者からの挨拶
- ・発表校は4校から5校を予定

③ カンボジア世界遺産からの中継探究学習

- ・UNESCO世界遺産の構成資産であるトゥールスレン虐殺資料館からの中継学習
- ・資料館の歴史的背景、記憶の継承、平和教育としての意義について学習
- ・生徒・学生による質疑、対話、学びの共有